

「かまわないでくれ。」「黙れ。」

1月22日の礼拝メッセージを聴いて

『この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」イエスが、「黙れ、この人から出て行け」とお叱りになると、汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。』

(マルコによる福音書1:24 - 26)

汚れた霊とは何か、聖書のけいれんの記述だけでは“てんかん”のような病気を想像させます。平良牧師は、「本心は助けて欲しい、でも誰にも踏み込んで欲しくないと想ってしまうかたくなな気持」も汚れた霊のためかもしれないと述べました。素直に、相手には迷惑かもしれないが、「助けて欲しい！」と叫ぶことは罪なことではないと私は思います。

また、現代的な汚れた霊について、「誰にも起きうる心の葛藤、蝕まれた心や身体の問題、社会の仕組みが起す環境問題も含まれるかもしれません。」と述べました。私は、人間と人間、社会が、利権が引き起す問題には飢餓や戦争、低所得者、失業者、社会的差別などの問題も汚れた霊の所業かもしれないと想いました。これらの所業には、単に「出ていけ」と叱るだけでは解決しません。キリスト者としてどう立ち向かうかを考え、できることをしたいと想います。

また、27 節に、「これはいったいどういうことなのだ。権威ある人の新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」とあります。平良牧師は、牧師とは何かを考えることがあると言います。そして、「偉い権威のある人が言ったから、説いたから権威があるのではなく、神の権威を伝えているから、その間は牧師に権威が与えられているのです。」と説きました。どんな職業や立場でも、自分には権威があると錯覚している人や、権威があるのだと誇示する人を相手にするのは正直に言えば苦痛です。そして、その人を信頼できかねます。

神の子イエスの言葉には権威があります。この間、平良牧師の宣教で一貫していることはイエスが宣教をし、真実をときあかし、共にいたのは、底辺で暮らす「アウトサイダー」とされた差別された人々であったということです。私は、イエスの言葉の権威とは、共にいた底辺に立つ人々の想いが血肉化されていたが故に、権威があった側面も見逃せないと感じました。

イエスは苦しむ底辺で暮らす人々や差別された人々に救いと福音を与えました。そうした人々は、現代でも私たちのそばで暮らしています。私は、キリスト者として生きるならば、自分を高みにおいて、そうした人々とは関わらない態度とは、なにか虚飾のように感じます。自分はそうならぬよう、自己点検をし、少しでも共にいて交わりを深めたいと想いました。